

だんだんと秋が深まってきました。今、年長組の子どもたちには、ひとりでじっくりと遊ぶ姿が見える一方で、なかまとして相手のことを思いやり、認め合い、関わっている姿が様々な場面で見えています。今回は2つのエピソードからその姿をお伝えします。

「ぼくもうんどうかいのなかまに入りたい」 2学期の保育の視点②より
— 自分のやりたい遊びを選び、
一人でもなかまとでも遊びに取り組み、満足感を味わう —

今、子どもたちはお庭で思いきり身体を動かすことを楽しんでいます。9月の下旬頃から、年長組の子どもたちを中心に毎日『うんどうかい』が繰り返し行われています。最初からなかまに入って準備することから楽しんでいる子どももいれば、ファミリーデーをきっかけに興味を持ち始めた子どももいます。Aちゃんもその後者の一人です。

Aちゃんはうんどうかいが始まった頃から、タワーの上でその様子を見ていました。私はAちゃんがうんどうかいに興味があるのだと思い、「Aちゃんも一緒にやりましょう」と声をかけますが、「やらないよー」と言うばかりでした。それでもうんどうかいが始まり、ラジオ体操をしていると、Aちゃんはタワーの上で腕を振り一緒に動いていました。私はAちゃんがなかまに入るといいなという願いを持ち、その時に関わりながら待つことにしました。

ファミリーデー明けの日の事です。この日も繰り返いうんどうかいを楽しんでいた子どもたちが「先生、今日もうんどうかいの準備やりたーい」と言ってやってきました。Bちゃんは、最初から楽しんでいる子どもの一人です。Bちゃんは何人かのなかまと黒板を運びました。「今日はこのなかまだね。先生、今日のなかまの名前黒板に書いて」と子どもたちが言います。私は黒板の端に今日のなかまの名前を書きました。それから一緒にプログラムを考えます。「今日は何をする?」「小さい組もできることも入れたいよね」「かけっこはみんな出来るね」「あひるのダンスは小さい組が好きだって言ってたよ」など…相談が始まります。私は子どもたちやりたいことを黒板に書き出します。するとその時、タワーを降りてAちゃんがやって来て「ぼくかけっこのゴールテープ持っていたいなー」と言いました。私は『Aちゃんのやりたいと思う時がきたな』と嬉しく思いながら「一緒にやりましょう」と応えました。黒板にはAちゃんの名前が書かれました。Aちゃんは自分の名前が書かれて嬉しそうでした。

その日プログラムが『かけっこ』となった時の事です。私はゴールテープを持

つことを楽しみにしていたAちゃんに「よろしくね」と言って、赤い紙テープを渡しました。Aちゃんは満面の笑みで「うん」と受け取りました。そしてAちゃんとBちゃん二人がゴールテープを持つことになりました。Bちゃんが「Aちゃんは子どもたちがゴールしてもずっとテープを持っていてね。私はさっと手を離すからね」と説明すると、Aちゃんは「わかった」とうなずきます。最初はタイミングが合わずもたもたしましたが徐々にコツを掴んでいきました。

Aちゃんのようにすぐに入らなかった子どもも、ファミリーデーをきっかけに「やってみようかな」と思い参加するようになってきました。一つの目的を達成するために、これまで遊びの中では出会わなかった子どもたちが集まり、なかまの関係が深まり楽しくなっていると感じます。うんどうかいはまだまだ続きそうです。



「砂場をする子どもたちの姿から」

— なかまと創り出す、工夫する、発見する、達成感を味わう —

秋の気持ち良い天気の日、子どもたち全員で裸足になりブルマースを履き、砂場で遊ぶ日を作りました。ブルマースになった子どもたちは一斉に砂場へかけていきます。

砂場で久しぶりに遊ぶ二人の子どもたちは、相談を始めました。「久しぶりの砂場だな」「何を作ろうか?」「ねえ温泉作るのはどう?」「それいいね!」「本当の温泉みたいに深く掘ろうよ」「いいよ!じゃあぼくシャベル持ってくる」「ぼくも」と言って二人はシャベルを持ってきて、張り切って穴を掘り始めました。そこへ新たに三人が加わり、五人で、一斉に穴を掘り始めました。穴はどんどん大きくなっていきます。掘りながらも会話は続きます。「そろそろ水を入れようか?」「まだまだ、これじゃ浅くて本当の温泉じゃないよ」「五人みんなが入れるくらいもっと広くしよう」「そうだね」「隣で作っている川と温泉をつなげるっていうのもいいんじゃない?」「それじゃ温泉の水が川の所にいっちゃって水がなくなっちゃうよー」「そっかー」そんな会話を飛び交わしながら温泉作りは進んでいきました。

段々と今までに見たことのないような広さと深さのある大きな温泉ができました。次に子どもたちはバケツを手に持ち「よし、次はどんどん、お水をいれるぞ」と言って水をくんできて掘った穴の中へ流し入れました。「たくさん水

を入れないと、温泉にはならないからね」子どもたちがどんどん水を汲んでいくので、たらいの水はあっという間になくなっていきます。水を汲んできては穴の中へ流すことを繰り返すと、水はあっという間に穴に溜まっていきました。「わぁ温泉だ温泉だー」「中に入ってみよう」と言って、早速中に入りました。「ひゃー冷たい」「冷たいけど気持ちがいいねー」「五人みんなが入れる温泉が出来たねー」と言って五人でくっつきながら水の中に入り、温泉が出来上がったことをみんな喜び合いました。

やがて片付けの時間になると、満足そうに「あぁ楽しかったねーまたお弁当の後も続きやろうね」と、約束をしていました。

お弁当を食べ終えた午後、砂場を見てみると温泉作りの続きをしている姿がありました。



温泉作りをしていた子どもたちだけではなく、どの子どもたちも成長し、相談しながら一つのことを創り上げていけるようになっていることを感じています。「もっとここはこうしよう」「こんなふうにするのはどう？」と意見を出し合い、工夫をしています。時には意見がぶつかり、言い合いになってしまうこともあります。なかまになって、楽しさや達成感を共感している子どもたちです。

(安東 直緒)